



「愛情」いっぱい「笑顔」いっぱいの聖徳中学校

東近江市立聖徳中学校学校通信

2013. 9. 6 第 6 号

発行責任者：校長 安藤 宜保

tel:0748 (22) 0413 fax:0748 (22) 0423

行事で「成長する集団」と、 質の高い「学習集団」をめざすこと

まず、この長い休みを終え、全体として、元気にまた学校生活のスタートが出来たことを喜びたいです。健康と安全は何よりも大切です。休みに、生徒の転出がありましたので、9月1日から、生徒数705名となりました。(市内中学校最多)

どんな表情で2学期を迎えてくれるか、楽しみであり不安もありましたが、26日の登校日と、2日の朝、各教室をまわるうちに、安心に変わりました。

明るい笑顔で、

「おはようございます」

「校長先生、お久しぶり!」と。

聖中スマイルと、明るいあいさつが学校に戻ってきました。

このいつもながらの「笑顔」と「あいさつ」が心地よい

1. 行事をとおして「成長」する

この2学期は、大きな行事を控えています。

学校は、この行事をとおして、人間としての成長をめざしています。ひとつのことにみんなが一生懸命に取り組むこと。他人の意見を聞き、受け入れ、「折り合いをつけること」を学ぶこと。達成感、成就感を味わうこと。

取組中の不平不満、対立・・・いろんな場面が学習の瞬間です。どうかご家庭でも、この学びの方向で、わが子の心を支えてあげてください。**「愚痴」・「怒り」は、葛藤の最中なんです。十分に葛藤させて、学ばせてください。**

2. 質の高い「学習集団」をみんなでめざす

過日、全国学力・学習調査の結果が出ました。発表の滋賀県のランキングは、決して喜ばしい位置ではありませんでした。結果は真摯に受け止め、我が校の「学力向上策」について、検討に入っています。

本校の課題は、「一時間の授業の充実」と「家庭学習」です。

一時間一時間の授業、この一時間が、自分にとっても相手にとってももう二度と無い時間だという自覚、だから悪ふざけで乱したり、迷惑をかけたりせず、お互いに大切にしようとする**「質の高い集団」**をめざすこと。2学期は、このことも行事の取り組みのはざまで見失わずに頑張ってもらい。

また家庭でも、たとえ30分でも、学習に関する本を開き、「学ぶ場面」をつくること。これだけで随分変化が出るのです。**姿勢の問題です。**

この2点を始業式に話しました。



(体育大会団結の団総会風景)



2学期の、皆さんの活躍（がんばり）に期待します。

大会スローガン「完全燃焼 ～いつやるの?今でしょう～」

聖徳中学校三大会の「体育大会」、いよいよ目前です。

この体育大会は、色別7団組織で動いています。夏休み中から3年生が始動し、9月に入って団総会を開催し、団優勝のために、学年を越えた心のつながりができます。

- ・9月12日(木)8:30開会式です。
- ・雨天順延です。
- ・当日、生徒は弁当持参です。
- ・7日(土)登校の振替休日は、13日(金)となります。
- ・保護者参観の場合、駐車場に限りがあります。ご承知ください。

緑団	3-1, 2-6, 1-6
黄団	3-2, 2-7, 1-7
青団	3-3, 2-4, 1-4
桃団	3-4, 2-5, 1-1
橙団	3-5, 2-1, 1-3
紫団	3-6, 2-2, 1-5
赤団	3-7, 2-3, 1-2

当日は平日ですが、ご都合がございましたら、生き生きとしたお子さまの姿を参観いただければ幸いです。



※開催連絡ほかについては、「学校メール」にて随時配信します。またHPでも配信予定。

シリーズ「子どもがあぶない」

モラルよりずっと先に情報が氾濫する社会に生きるわが子

ほんの数年前、「有害図書」「有害ビデオ」を指定し、買わせない、目に触れさせない運動や指導が行われていた時代でしたが、今や、いつ、どこでも手に入り、目に触れる時代。「ダイヤルQ2」なんて、死語になってますが、こちらからかけなくても、どんどん情報や誘いが飛び込んでくる時代。

この時代の落とし穴は、少なくとも、モラルが先行していた時代を育った親が、その感覚でわが子を「誤信」しているということ。

ネット社会の落とし穴

軽い気持ちの言動が、警察や学校を巻き込んだ大きな問題になることが、今やインターネット上ではめずらしくありません。昨今の「悪ふざけ投稿」、あれだけ社会的制裁を受けたにもかかわらず、次から次へと同様事案が出てくる。そして、みんなごく普通の若者ばかりで、ここが落とし穴。

与えた後の責任を

「〇〇のはずがない。」

「いつも言っているから、わかっているはず」

携帯、PC、iPadなど、ゲーム機とは訳が違います。

いま、親の再診断とルールづくりをしっかりとやっておくことは、与えている親としての大きな責任です。

